

松嶋夜話 卷之下 56

〔原文〕次日再回

〔訓読〕次の日再び回す

〔原文〕應華藏寺茶請

〔訓読〕華藏寺の茶請に應ず

〔原文〕香厨承擾者不翅

〔訓読〕香厨、擾を承る者翅（ただ）ならず

〔原文〕余作謝資之詩送曰

〔訓読〕余謝資の詩を作り送りて曰く

〔原文〕湖山相繆鬱蔥蔥

〔訓読〕湖山相繆（まじ）りて、鬱として蔥蔥

〔原文〕茶果珍羞主意濃

〔訓読〕茶果珍羞して主意濃し

〔原文〕再爲蘭翁遭款待

〔訓読〕再び蘭翁の為に款待せられ

〔原文〕堪看華藏十三重

〔訓読〕華藏十三重を看るに堪う

〔原文〕住持力美珍而饗應

〔訓読〕住持美珍を力めて饗應す

〔原文〕供於盆石花貝南京磔子種種者

〔訓読〕盆石、花貝、南京の磔子、種種なる者を供す

〔原文〕表助贐餞道之義也

〔訓読〕助贐餞道の義を表すなり

〔原文〕感荷不罄

〔訓読〕感荷罄（つ）ぎず

〔原文〕仍以此郡中有三山祈禱所

〔訓読〕仍て以ふに、此の郡中に三山の祈禱所有り

〔原文〕一山此華藏寺北山有常膳密寺

〔訓読〕一山は此の華藏寺の北山に、常膳密寺有り

〔原文〕本尊十一面大像圓仁之所造是也

〔訓読〕本尊の十一面大像、圓仁の造る所、是なり

〔原文〕其二常膳西歷廿餘里有矢作邑

〔訓読〕其の二は常膳の西、廿餘里を歴て、矢作邑有り

〔原文〕曰長谷山觀音寺

〔訓読〕長谷山の觀音寺と曰ふ

〔原文〕又有其隣邑曰盛里鄉猪川邨龍福山長谷寺

〔訓読〕又た其の隣邑有り、盛里郷の猪川邨の龍福山の長谷寺と曰ふ

〔原文〕此三寺田村麻呂大同二年一時建立

〔訓読〕此の三寺、田村麻呂、大同二年に一時、建立す

〔原文〕各各本尊觀音大像圓仁之一作也

〔訓読〕各各本尊の觀音大像、圓仁の一作なり

〔原文〕然此長谷寺有麻呂對治之大竹丸觸體

〔訓読〕然して此の長谷寺に麻呂が對治の大竹丸の觸體有り

〔原文〕有牙齒三十六板

〔訓読〕牙齒三十六板有り

〔原文〕牙二寸許

〔訓読〕牙二寸許

〔原文〕小齒一寸餘

〔訓読〕小齒一寸餘

〔原文〕橫亦一寸有奇

〔訓読〕橫亦た一寸奇有り

※訓読よくわかりません

〔原文〕廿年前此堂再興

〔訓読〕廿年前、此の堂再興す

〔原文〕闢地基得觸體頂上

〔訓読〕地基を闢くに觸體を頂上に得たり

〔原文〕刺小刀

〔訓読〕小刀を刺す

〔原文〕登時登于城府入君侯釣覽

〔訓読〕登る時、城府に登って、君侯釣覽に入る

〔原文〕余時在于仙府

〔訓読〕余時に仙府に在り

〔原文〕見其牙齒鎖骨矣

〔訓読〕其の牙齒鎖骨を見る

〔原文〕大竹九惡黨夷達谷巖屋之高丸黨類也

〔訓読〕大竹丸は惡黨夷の達谷の巖屋の高丸黨の類なり

〔原文〕真鬼人也

〔原文〕真の鬼人なり

〔原文〕以今之世不見

〔訓読〕今の世を以て見ず

〔原文〕曰往昔無鬼神乎哉

〔訓読〕往昔、鬼神無しと

〔原文〕此牙齒現今在于長谷寺

〔訓読〕此牙齒、現今長谷寺に在り

〔原文〕不誣於人者也

〔訓読〕人を誣(し)いざる者なり

〔原文〕俗唱曰此寺於長谷堂是也

〔訓読〕俗唱に曰く、此の寺を長谷堂と曰う、是なり

〔原文〕事實載於余之先年流行燕南紀譚前集之上写詳也

〔訓読〕事實、余が先年流行の燕南紀譚の前集の上写に載せて詳しい

※燕南記譚：江戸時代中期に書かれた仏教・禅宗系の随筆（説話集）です。臨済宗の僧・天嶺性空によって編纂され、仏教説話や寺社の縁起、日常の教訓などが記されています。

〔原文〕此古來一郡祈願寺也

〔訓読〕此れ古来一郡の祈願寺なり

〔原文〕敢告于此矣

〔訓読〕敢て此に告ぐ

〔原文〕告而歸于廣田

〔訓読〕告げて廣田に歸す

〔原文〕蘭翁公此夕亦來于慈恩

〔訓読〕蘭翁公、此の夕、慈恩に来る

〔原文〕乞題蘭翁號

〔訓読〕蘭翁號を題せんと乞う

〔原文〕以拗體把筆題曰

〔訓読〕拗體を以て筆を把つて題して曰く

〔原文〕宣王會唱猗蘭操

〔訓読〕宣王會て猗蘭操を唱え

〔原文〕萬種草中稱國芳

〔原文〕萬種草中、國芳と稱す

〔原文〕譬如君子在朝埜

〔訓読〕譬へば、君子の朝埜に在るが如し

〔原文〕弗爲行藏不吐香

〔訓読〕行藏の為に香を吐かずんばあらず